

三架橋時代に向けた四国の地域づくりについて

建設省四国地方建設局企画部企画課	正会員	佐藤克英
〃 〃 〃 〃	正会員	藤山 究
〃 〃 〃 〃	正会員	○松田邦泰

1. はじめに

四国地域においては、本州四国連絡橋等の高規格幹線道路の整備が進展し、様々な面で大きな変化が予想される。また、近年の瀬戸大橋をはじめとする社会基盤の整備は、経済・生活・文化等広範囲にわたる地域の活性化や、新たな交流圏の形成による国土の均衡ある発展に大きく寄与するものと期待されている。

かかる状況のもと、来るべき三架橋時代に向けて四国の飛躍を図るためには全国水準を目指した四国の社会資本整備と、このインパクトを有効に享受するための地域づくりを推進していく必要がある。

このようなことから、高齢化、国際化、環境保全など四国を取り巻く様々な環境変化に対応した四国の進むべき方向、社会資本整備のあり方等について取りまとめたものである。

2. 四国の現状と課題

(1) 自然・社会・経済

- ①豊かな自然が残されている反面、地形が脆弱である。また、南北の降雨の地域格差が著しい。
- ②若者の流出等による高齢化、過疎化が著しい。（全国より１０年早い高齢化、半数以上が過疎地域）
- ③第一次産業の比率が高く、第二次産業は生活関連型が多い。全国との所得格差は拡大しつつある。
- ④高等教育機関の不足。国際化、情報化の遅れ。
- ⑤高速交通体系を始めとする社会資本整備や、下水道・公園等の都市基盤整備の遅れ。

(2) 四国のポテンシャル

- ①人口はノルウェーに、経済規模（県民総生産）は香港・タイ・フィンランドに匹敵する。
②特色を活かした全国に誇れる産業がある。（産業：和紙、タオル、手袋等、企業：セシル等）
③豊かな自然、歴史、文化がある。（四国カルスト、八十八箇所巡り、阿波踊り等）

(3) 瀬戸大橋開通が四国に与えたインパクト

- ①都市間の所要時間の短縮、定時性の確保。また、それにとまなう通勤・通学者の増加。

(4) 四国を取り巻く環境変化

- ①ゆとり社会の希求・・・価値観が多様化し、経済的・物質的豊かさから、暮らしのゆとりや心の豊かさが実感できる社会が求められている。
- ②地球環境への貢献・・・地球規模での環境問題が深刻化しグローバルな環境対策が求められている
- ③高速交通時代の到来・・・三架橋や域内国土開発幹線自動車道の進展により、内外の交流・連携が活発化している。また、太平洋新国土軸や地域連携軸も計画されつつある。

4. 四国発展の基本方向

(1) 基本的視点

四国の現状と課題及び環境変化等を踏まえると、以下の4つの視点が特に重要と思われる。

- ①社会資本整備等により、人・物・情報・文化等の交流の活発化と連携の促進を図っていく
〔交流と連携〕
- ②安全で魅力ある地域を形成する〔安全・魅力〕
- ③恵まれた自然環境を活かした地域づくりを行っていく〔環境との共生〕

④架橋時代にふさわしい産業構造の実現を図っていく〔産業の高度化・多元化〕

(2) 四国発展の基本方向

上記の4つの基本的視点を踏まえ、基本テーマ及び基本方向を以下のように設定する。

基本テーマ：「ゆとりと豊かさに満ちた四国の創造」

基本方向：①交流・連携強化による広域経済文化圏の形成

②安全で魅力ある地域の形成

③自然と共生する環境共生アイランドの構築

④活力に富む成長産業の育成

(3) 目標年次

目標年次としては、公共投資の伸びが期待される21世紀初頭である2010年（日本の将来推計人口がほぼピークになる時期）とする。

5. 建設省所管施設の長期的整備目標

(1) 四国発展のための住宅・社会資本整備の基本方針

四国は豊かな自然や文化遺産等に恵まれているものの、離島性のハンディキャップ等による社会資本整備等の遅れから、その優れたポテンシャルを活かし切れない地域であった。しかしながら、今四国は本四架橋を中心とした社会資本整備の進展が、人・物・文化の「交流」を活性化させてきている。

このような背景の中で、四国発展のための基本テーマ及び基本方向を踏まえて、以下の4つの柱を四国発展のための住宅・社会資本整備の基本方針として、四国の発展を目指していくものとする。

基本方針：①交流の活性化を促す交通ネットワークの整備

②定住を促進させる基盤整備

③豊かさを実感できる成熟化社会の構築

④恵み豊かな自然環境と調和した整備

(2) 住宅・社会資本整備推進のための前提条件

住宅・社会資本整備を推進していくにあたっては、以下に示す事項を前提に行っていくものとする。

①より豊かな成熟化社会を実現していくため、環境・景観・文化・福祉等を内在化させた質の高いストックを重視した住宅・社会資本の形成を図っていく。

②歴史・文化等の地域資源を最大限活用しつつ、他地域との人・物・情報等の交流・連携を重視した特色のある住宅・社会資本の形成を図っていく。さらに、その効用を最大限に発揮させるため、地域や関係機関と協力し、社会資本を活用した交流・連携を促すためのイベント等ソフト面での施策を展開していく。

③これらの推進にあたっては、地域が主体となった取り組みが基本であり、地域住民の参加を促すとともに、有識者の意向等を反映していく。

④良質な住宅・社会資本整備の推進を支えるため、建設産業の活性化、イメージアップ化、人材の育成・確保を図っていく。

6. おわりに

全国に先駆けて高齢化、過疎化の進む四国において、三架橋というインパクトを活かしたこれからの地域づくりについて、特にそれらの基礎となる社会資本整備について検討し、取りまとめたものであるが、今後は、この提言を基に四国発展の根幹をなす社会資本整備を進めるにあたっての一つの指針として広く活用し、建設行政の推進や新たな施策等に反映させていきたいと考えている。

最後に、この提言を頂くにあたってご努力頂いた懇談会の委員の方々に敬意を表すものである。